

心理尺度について

会誌編集部

I. きっかけ

看護師の職務満足度調査に使われる尺度を調べるため文献を検索する機会がありました。職務満足をはかる尺度には Stamps らが作成した「看護婦の職務満足質問紙」¹⁾、これを翻訳した尾崎らの「日本語版職務満足 48 項目」²⁾、Yamashita が作成した「看護師の職務満足度スケール」³⁾ など複数あることがわかりました。

図書館員として利用者におすすめの尺度を紹介できるだろうかと思い、尺度について調べました。

II. 心理尺度とは

尺度とはモノサシのことです。心理尺度とは、言葉を使って人の気持ちなどをはかるモノサシのことをいい、スケールとも呼ばれます。病院図書館でよく耳にする痛み尺度も心理尺度のひとつです。尺度は調査用紙やインタビューの形で用いられ、質問紙や心理テストとも呼ばれます。アンケートとは違って複数の項目で構成されています。

対象となる“人”と用いる“言葉”には、それぞれ欠点があります。“人”の欠点は、見栄を張ったりがまんしたりして正しいことを言わない場合があることです。たとえば、出身大学名を2度たずねると同じ答えをしない人がいる、などがそうです。“言葉”の欠点は、あいまいさが残ることです。例えば「スポーツは好きですか?」という場合、スポーツをするのが好きなのか、またスポーツを観戦するのが好きなのか分からない、などです。尺度は、言葉を使って得た回答を数値に変換し、統計的な計算を行い、できるだけ正しいモノサシへと仕上げます。もともとは心理学や教育学の分野で用いられていましたが、医療の現場では生存期間や検査値からはとらえきれない症状に対する処置や QOL の改善を目指した治療が重視されるようになってきたため、使われる機会が増えています⁴⁾。

現在、心理尺度は心理測定尺度集では 350 種類、三重大学の心理尺度データベースには 1,261 件（質問項目含む、若干重複あり）あります。

III. 研究に用いる心理尺度の作り方 (図 1)⁵⁾

作成するにあたり、自身の研究テーマに関連する文献を検索します。役立つ質問紙の作成例などがあれば、いくつかの項目を借用したり改変したりして新しい尺度に組み込むことは慣例的に許されています。

そして文献から質問項目を作成し、試作版を作ります。質問項目にはわかりやすく誤解のない表現を用います。また試作版には正しく答えない人の回答を除外するテストを盛り込みます。以後は図 1 の順で行い尺度が作られます。

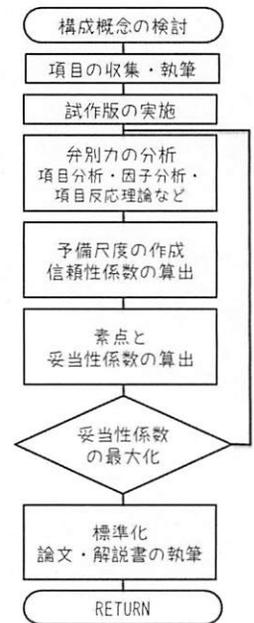


図 1 心理尺度の作り方

こうして尺度を開発したら、開発者は論文を執筆すると同時に簡潔なマニュアル・専門家向けのハンドブック、一般向けの啓蒙書を執筆します。ここには、信頼性と妥当性の根拠や望ましい使用方法、予想される誤用に対する具体的な警告など、作成の過程や注意事項などの情報を記します。

IV. 「おすすめの尺度」について聞かれたら

マニュアルやハンドブック、書籍として存在しない場合は論文を調べます。ここには尺度開発の経緯が記されているので、それを読めば利用者は自分にあった尺度かどうかわかります。

いくつかの統計的な計算を行って作成されている尺度なので、一概には言えないのですが、信頼性をはかる α 係数が0.8以上あるかどうかや、妥当性は表面的妥当性^{※1}や社会的妥当性^{※2}などだけで検討されていないかなどを確認します。その上で、参考までにその心理尺度を利用者に紹介することはできそうです。また、いくつかの項目を借用したり改変したりして新しい尺度に組み込むことが慣例的に許されていることも知らせて役立ててもらおうと思いました。

V. 役立つ尺度サイト

尺度は文献や書籍やインターネット上から入手することができます。「心理測定尺度集」(サイエンス社)⁶⁾は6巻まで発売されており、国立国会図書館の尺度資料集⁷⁾には尺度名などが掲載されています。三重大大学のサイト⁸⁾などほかにもウェブサイトでたくさんの尺度に関する情報を得ることができます。利用時には作成者の許可が必要な尺度もあるのでご注意ください。

参考文献

- 1) Stamps PL, Piedmont EB, Slavitt DB, et. al.: Measurement of work satisfaction among health professionals. Medical Care. 1978; 16(4): 337-52.
- 2) 尾崎フサ子, 忠政敏子: 看護婦の職務満足質問紙の研究 Stamps らの質問紙の日本での応用. 大阪府立看護短期大学紀要. 1988; 10(1): 17-24.
- 3) Yamashita M: Job satisfaction in Japanese nurses. Journal of Advanced Nursing. 1995; 22: 158-64.
- 4) 奥田千恵子. 医薬研究者のための評価スケールの使い方と統計処理. 金芳堂: 京都. 2007.
- 5) 村上宣寛. 心理尺度の作り方. 北大路書房: 京都. 2006.
- 6) 心理測定尺度集 I-VI. サイエンス社: 東京.
- 7) 国立国会図書館. 「心理測定尺度集」に収録された個別心理測定尺度(心理尺度). [引用 2012-04-02]. http://rnavi.ndl.go.jp/research_guide/entry/theme-honbun-400301.php
- 8) 三重大大学心理学教室南研究所. 心理尺度(項目)データベース PSDB_Mie. [引用 2012-07-24]. http://www.minamis.net/scale_search/mpsbmain.html

(文責: 寺澤裕子/関西労災病院)

※1 テストを実施する人や受検する人がその正しさを主観的に判断したもの。

※2 表面的妥当性とほとんど同じ概念で、ある行為やテストが社会にとってふさわしいものかという観点から評価する。